自分事として道徳的価値を捉え、自己の考えを深める児童の育成
－「やってみようタイム」と「自分への手紙」を通して－

特別研修員　道徳　新井　正樹（小学校教諭）

児童の実態
- 他者の考えに興味をもち、自分の考えを深めることに課題がある。
- 教材から離れて、自分事として考えることが難しい。

教師の願い
- 友達との対話から自分の考えを深められるようになってほしい。
- 自分の経験と結び付けて、道徳的価値を捉えられるようになってほしい。

手立て１
- 「やってみようタイム」による体験的な学習（動作化、役割演技）

手立て２
- 「自分への手紙」による振り返り

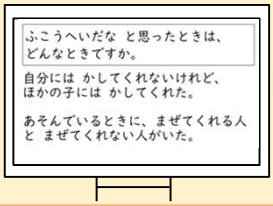
成果
- 友達との対話を行う中で、児童が自分の考えをもち、考えを深めることができた。
- 自分への手紙を書く活動を行う中で、自分の考えの変化や深まりを実感し、自分事として捉えて考えを深めることができた。

課題
- 小学校低学年の段階では、体験的な学習を行う前に、目的や何を考えるかを明確に示すことが必要である。
- 手紙を書く際は、文型を示したり、個別に考えを聞いたりするなど、児童の実態や発達の段階に応じた工夫が必要である。

主題名：だれにたいしても〔内容項目Ｃ－１３公正、公平、社会正義〕 教材名：「雨ふり」（出典：どうとく２　きみがいちばんひかるとき　光村図書）（第2学年）

導入

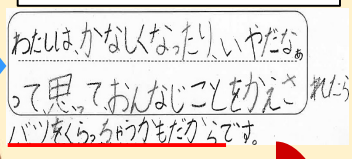
アンケート結果を共有し、自分自身を振り返ってめあてをつかむ



みんなに同じようにすることは大切だな。でも、どうして大切なんだろう。

今日みんなで考えるめあては、「誰に対しても同じようにすることは、どうして大切なのだろう」ですね。

めあてに対する児童の考え



展開

手立て１「やってみようタイム」

自分事として道徳的価値を捉える

登場人物のセリフで演じる **動作化** ▶ 対話（グループ） ▶ 対話（全体） ▶ 自分の言葉で演じる **役割演技**

自分の考えをもつ　　自分の考えを伝える　友達の考えから多面的・多角的に考える　　自分との関わりで考える

お願い、入れて。

のりこさんはいいけど…。

嫌な気持ちだったよ。

二人に同じようにできればよかったよね。

問い返し：どうしてそう思ったの。

ゆさぶり：先生だったら、一人だけ傘に入っちゃうな。

だめ、だめ。

自分だったら入らないよ。

仲間外れにされたら嫌だから。 ▶ かわいそうだから。 ▶ みんな同じにした方が、ハッピーになるよ。

もう一度同じ場面があったら、何と答えますか。

いいよ。入れてあげる。

一人だけ入れないのはよくないから。

考えの深まり

終末

手立て２「自分への手紙」

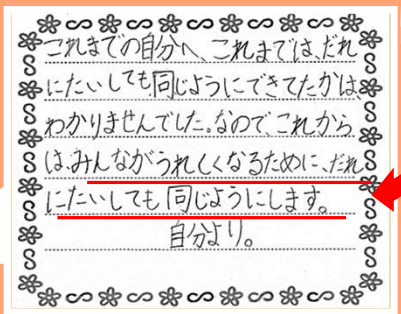
自分事として道徳的価値を捉えて振り返る

日常の場面の想起 ▶ **振り返り**

アンケートでは、こんな場面がありましたね。

これからこんなときがあったら、どうしようかなあ。

【自分への手紙】
これまでの自分へ
今の自分へ
これからの自分へ



考えの深まり